

平成29年度
事業報告書

自 平成29年4月1日

至 平成30年3月31日

はじめに

日頃から協会事業にご支援を賜り厚くお礼申し上げます。
平成 29 年度事業についてご報告申し上げます。

当協会が公益社団法人として認定を取得して 6 年目となる平成 29 年度は、2020 年に迎える協会 40 周年に向けての基盤づくりの年として、前年度から実施しているガバナンス改革を一層進めるとともに、委員会の活性化及び現状会員制度の見直しを行ってまいりました。特に会員制度に関しては、パブリックリレーションズの普及啓発という協会の使命を認識し、個人に対する協会参画の門戸を広げることを中心に新たな会員制度を検討してまいりました。また、各委員会活動においても協会事業の一層の質的向上に向けて努力を継続する所存です。

事業面で一年を振り返ると、教育委員会が主管する教育研修事業、資格委員会が主管する PR プランナー資格認定事業が前年度に引き続き好調に推移しています。講座・セミナーへの参加者数、PR プランナー資格認定試験への受験者数がそろって増加傾向を示し、事業収支の面でも大きな貢献が見られました。

個別の事業についてご報告いたします。はじめに**公益目的事業**についてご報告いたします。

前述した**教育研修事業**は、広報・PR 実務に関する各種講座をシリーズで実施している「広報・PR アカデミー」「PR プランナー試験対応講座」が順調に回を重ね、話題のゲストスピーカーを迎えて実施する「定例研究会」（その他事業）も 9 回にわたって開催され、概ね盛況な一年となりました。

PR プランナー資格認定制度では、年 6 回実施している試験の受験者数が第 1 回を除き過去最高を記録し、認定 PR プランナー数が累計で 2,400 名を突破するなど堅調に推移しています。PR プランナーへの認知が高まり社会的責任が増大する中で、今年度は平成 19 年度の資格認定制度創設以来 10 周年のという記念すべき年を迎え、協会横断の取り組みとして「PR プランナー資格制度創設 10 周年記念特別シンポジウム」を開催いたしました。

三大顕彰事業である日本 PR 大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」「シチズン・オブ・ザ・イヤー」と「PR アワードグランプリ」は、協会のシンボリック事業として定着しています。とりわけ PR の最新潮流の象徴ともいえる「PR アワードグランプリ」について、前年度全面的に見直しを行った審査方法や審査のプロセスを引き続きより公平性、透明性の高いものへと改良し、引き続き多くのエントリー応募がありました。受賞したエントリーは PR への期待の高まり、社会的要請を踏まえた点が審査員から高く評価されたもので、日本の PR のレベルアップを実感させるものとなりました。

次に**収益事業**についてご報告いたします。

「**広報・マスコミハンドブック PR 手帳**」が販売好調で、3,000 部を超える発行となりました。

その他事業についても予定通り計画が進行いたしました。

女性広報担当者を対象とした「なでしこカウンスル」、海外の最新トレンド情報について内外の講師を招いて学ぶ「特別国際セミナー」など、特色のある研究、交流活動が活発に行われました。

最後に、部会活動（**企業、PR 業、関西、PR プランナー**）もいずれも順調に推移いたしました。

当協会の設立目的でもある「パブリックリレーションズを通じた社会発展への貢献」に向けて一層の努力を傾けていく所存です。会員の皆さまのご理解とご協力を引き続き賜りますよう、心からお願い申し上げます。

I. 公益目的事業（パブリックリレーションズに関する普及啓発事業）

1. パブリックリレーションズに関する倫理綱領の確立および実践

広報・PRパーソンの教育や倫理の徹底を行い、パブリックリレーションズに関する倫理綱領の確立および実践、研修会・講演会の開催並びに人材育成などを行うことにより、パブリックリレーションズの健全な発展を図り、わが国の産業・経済・社会の発展に寄与する事業を継続して行った。

2. パブリックリレーションズに関する専門人材の養成に向けた教育研修事業

わが国におけるパブリックリレーションズ（PR）の健全な発展を図り、産業・経済・社会の発展に寄与することを目的として、経験レベル・目的に合わせたPRに関する研修会・講演会及びセミナーを開催した。専門的知識を有する講師を招聘し、広報・PRの知識とスキルの体系的な習得とともに、知っておくべきその年の旬のテーマについて理解をはかるよう題材を構成した。

・広報PRアカデミー2017

広報・PRの役割が益々重要になってきており、広報・PRに関わる人材の育成は、企業・団体のみならず社会的な要請となっている。当協会の公益性を鑑み、そのような企業・団体や社会的要請に応える講座を平成29年度も開催した。以下の「広報PRアカデミー」の各々の講座は全て、会員のみならず一般の方々をも対象とし、開催要領は協会Webサイトに掲載して、広く受講の機会を提供した。

1. ベーシック（基礎）PRコース

比較的経験の浅い広報・PRの新任者、広報・PRについて基礎から学びたい方等を主な対象とし、実務に必要な基本的な知識や実務スキルの習得を目的とするコース。

・「広報・PRスタートアップ講座」

PR会社、企業の広報・PR部門における新任者など比較的業務経験の浅い広報・PR実務者を対象とする業務研修。受講者が広報・PRに関する基本的な知識、業務に不可欠なスキルを3日間の講義と演習を通じて効果的に習得できるよう本講座を開講した。講師には、広報・PRの実務専門家、弁護士、大手企業における現職のマネージャーを迎え、日々刻々と変化する現場の実際に即し、すぐにでも現場で活用できる生きた広報・PR実務を学ぶことができるよう指導した。参加者は3日間受講63名（会員50、一般12、PRプランナー（准・補）1）、1日受講1日目7名（会員2、一般5）、2日目1名（会員1）、3日目1名（会員1）。プログラムは以下のとおり。

開催日	講座テーマ	講師
平成29年 4月11日 (火) (1日目)	ご挨拶／オリエンテーション	(公社)日本パブリックリレーションズ協会
	パブリックリレーションズとは？～パブリックリレーションズの基本を学ぶ～	(株)井之上パブリックリレーションズ 井之上 喬氏
	「コーポレート・コミュニケーションが支えるこれからの経営～これからの企業広報とその役割～」	(株)資生堂 上岡典彦氏
	「オウンドメディアを効果的に活用する～自社メディアの活用ポイント～」	(株)ウェブライダー 松尾茂起氏

	「リスク対応！企業を守るクライシス・コミュニケーション～クライシス・コミュニケーションの基本と実務～」	(株)オズマピーアール 西山卓氏
	「法とコンプライアンスの観点から見た広報・PR～平時・有事の広報業務で留意すべき法的ポイント～」	TMI総合法律事務所 弁護士 中村勝彦氏
4月12日 (水) (2日目)	現場で役立つマーケティングPRの進め方～マーケティングPRの基本と実務～」	(株)インテグレート 芹澤愛有子氏
	「世界一魅力的な広報・PRパーソンになるには～広報・PRパーソンはコミュニケーションのプロフェッショナル～」	エートゥーゼットネットワーク 石橋真知子氏
	「これだけはマスター！ニュースリリースの基礎と活用～ニュースリリースは広報・PRの必修科目～」(講義と演習)	(株)電通パブリックリレーションズ 青田浩治氏
4月13日 (木) (3日目)	「マスメディアを上手に使う！何よりここがポイント～テレビ・新聞・雑誌・ラジオの特性と活動原理～」	(株)スペインクラブ 田代 順氏
	「デジタル・コミュニケーションが開くこれからの広報・PR～ソーシャルメディア、Webメディアをどう活用するか？～」	クロスメディア・コミュニケーションズ(株) 雨宮和弘氏
	「やっぱり重要！メディアリレーションズはPRの基本～マスコミ関係者との上手な付き合い方～」(講義と演習)	ピーアール・ジャパン(株) 中村峰介氏

・「広報・PRブラッシュアップ講座」

秋期から新たに着任した広報・PRの新任者が主な対象。広報・PR業務においてもっとも基本的なスキルである「メディアリレーションズ」、「PRプランニング」、「コンテンツデザイン」について、講義と演習を通じて習得を図る講座。演習を重視する実践的な内容としていっそう実務に即した講座とし、テーマ別に平成29年10月、11月の3日間、それぞれ4時間の講座として開講した。

●「ベーシック・メディアリレーションズ」

メディアと日常的に接する広報・PRパーソンがマスターしておくべきメディアリレーションズの基本を4時間の講義と演習を通じて習得した。また、ソーシャルメディア等のネット系メディアを通じた情報拡散のプロセスについて考え、広報効果を高めるマスメディアとの効果的な連携法についても学んだ。

開催日	講座テーマ	講師
平成29年 10月18日 (水)	「多様なメディア特性の理解と効果的な活用のポイント」	(株)スペインクラブ 田代 順氏 参加者:24名(会員10、一般7、PRプランナー(准・補)5、優待2)

●「ベーシックPRプランニング」

現状分析から課題・目標の設定、戦略策定、そして戦略に基づく施策の立案等の一連のプロセスにより構成され課題解決につながる戦略的なPRプランニングをテーマに、その作成に求められる基本的なスキルやポイントを、実務経験の深い講師の指導により4時間の講義と演習を通じて習得した。

開催日	講座テーマ	講師
平成 29 年 10 月 25 日 (水)	「戦略的PRプランニングのためのスキルとポイント」	(株)井之上パブリックリレーションズ 横田和明氏 高野祐樹氏 参加者:19名(会員12、一般4、PRプランナー(准・補)3)

●「ベーシック・コンテンツデザイン」(旧ベーシックPRツール)

パブリックリレーションズ発想に基づくコンテンツの設計・制作・活用(コンテンツデザイン)について4時間の講義と演習を通じて学び、WebやSNSをはじめとする様々なメディアを効果的に活用する考え方を習得した。

開催日	講座テーマ	講師
平成 29 年 11 月 1 日 (水)	「パブリックリレーションズ視点で考えるコンテンツデザイン」	(株)インテグレート 赤坂幸正氏 参加者:19名(会員11、一般4、PRプランナー(准・補)4)

2. アプリケーション(応用)PRコース

業務に一定の経験を有する広報・PR関係者を対象とし、専門性の高い講義やグループワークなどの演習を通じて、広報・PRに関する高度な知識や実務スキルを習得するコース。

・「新任広報部長講座」

広報部門の上級管理職として不可欠な考え方や心構え、社内外との関係性の構築、メディアからみた企業・経営の評価や企業におけるガバナンスやコンプライアンス、危機管理などについて情報交換を交えながら習得した。参加者は15名(会員7、一般7、PRプランナー(准・補)1)

開催日	講座テーマ	講師
平成 29 年 10 月 5 日 (木)	「広報部長の責任・役割及び社内外との関係構築の考え方」	(株)ローソン 常務執行役員 宮崎 純氏
	「メディアから見る企業・経営と広報部長に期待したいこと」	(株)朝日新聞社 広報部長 後田竜衛氏
	「企業の危機管理と広報部長の役割」	TMI総合法律事務所 弁護士 中村勝彦氏
	広報マネジメントサロン(懇親・意見交換会)	

・「広報・PRプラクティカル・トレーニング」

広報・PR業務における新しい技法、重要だがあまり学ぶ機会のないスキルの習得をめざす講座。スキルが確実に身に付くよう、頭と手を使い、さらにロールプレイなども内容とする実習やワークショップを重視したトレーニングとして構成する。「クライシス対応トレーニング」「コンテンツ活用PRトレーニング」の2講座を実施した。

●「クライシス対応トレーニング」

危機発生直後に不可欠なクライシス・コミュニケーションの考え方や初動における重要ポイント、クライシスシナリオの作成法をはじめとして、緊急記者会見の開催を想定した広報部門の準備手順、記者の信頼を獲得するために必要な登壇者の外見にかかわる注意等について、講義と演習を通じて習得した。

開催日	講座テーマ	講師
平成 29 年 7 月 21 日 (金)	「クライシス・コミュニケーションの実践的ポイント ～初動から緊急記者会見まで～」	広報コンサルタント (有)シン 取締役社長 石川慶子氏 参加者:36 名(会員 24、一般 6、PR プランナー(准・補)5、優待 1)

●「コンテンツ活用PRトレーニング」

写真撮影や映像制作に関する基本的な知識、スキルの習得を目的として、写真・映像を効果的に活用する広報・PR活動を行うためのテクニックを、この分野に精通した講師による講義と、日常的に活用するスマホを用いた演習を通じて身につけた。

開催日	講座テーマ	講師
平成 30 年 3 月 8 日 (木)	「広報・PRにおける写真・映像コンテンツの撮 影・制作・活用テクニック」	(株)ストーリーテリング 代表取締役 平野安健氏 参加者:26 名(会員 18、一般 4、PRプ ランナー(准・補)3、優待 1)

・「コミュニケーション・ケーススタディ」

実務家の間で重要性の高い企業広報、危機管理広報、戦略PR、広報効果測定、デジタルメディアの5つのコミュニケーション領域を対象とし、事例分析やケーススタディから活動の成否につながる本質や原理を理解し、業務をよりの確に遂行できる実務能力の養成を目的とした講座。講師にはその領域における業務遂行に精通した実務専門家を起用し、自身で手がけた事例やケーススタディに基づく知見を解説いただいた。

●「企業広報スタディ」

企業と社会との接点、企業と社員との接点となる広報部門において、その中核にいる広報・PRパーソンが備えておくべき基本的な価値観や考え方を、ケースディスカッションを通じて習得した。

開催日	講座テーマ	講師
平成 29 年 11 月 15 日 (水)	コーポレートコミュニケーション経営 ～会社は何をすところ？～	(株)野村総合研究所 コーポレートコミュニケーション 部 社会情報大学院大学 教授 柴山慎一氏 参加者:12 名(会員 9、一般 1、PRプ ランナー(准・補)2)

●「危機管理広報スタディ」

クライシス発生時における広報対応の実際やその取組みの適否、成否を分ける本質的な原因等をケーススタディを通じて考察し、そこから得られる教訓の理解と習得を通じ広報・PRパーソンの危機対応力の強化をはかった。

開催日	講座テーマ	講師
平成 29 年 12 月 12 日 (火)	クライシス発生・拡大の原理とメディア対応における重要ポイント ～最近のクライシス事例から学ぶ緊急時対応の適否～	榊田中危機管理広報事務所 代表取締役社長 田中正博氏 参加者:27名(会員15、一般7、PRプランナー(准・補)3、優待2)

●「戦略マーケティングPRスタディ」

従来のマーケティングPRを超えて、より大きな成果を生み出す手法として関心を集める「戦略PR」について、その手法を用いた取組みや考え方、計画立案などについて、具体的なケーススタディの解説をとおしてそのポイントを習得した。

開催日	講座テーマ	講師
平成 30 年 1 月 18 日 (木)	社会常識を変える『戦略PR』の新たな挑戦 ～世の中を動かす新しい6つの法則～	ブルーカレント・ジャパン(株) 代表取締役社長 CEO 本田哲也氏 参加者:51名(会員28、一般14、PRプランナー(准・補)7、優待2)

●「広報効果測定スタディ」

急速に変化するメディア環境に対応したPR効果検証の考え方や方法論を習得するため、情報流通に関する分析法の事前設計を始めとして収集するデータの選定、分析する際の着眼点や注意点、さらに効果検証を行う際に考慮すべきポイントなどについて、情報流通の事例分析を通じて学んだ。

開催日	講座テーマ	講師
平成 30 年 2 月 15 日 (木)	「変容するメディア環境におけるPR効果検証の考え方と方法論 ～複雑化する情報流通の事例分析からのアプローチ～」	ウェーバー・シャンドウィック アカウントディレクター 古川慎太郎氏 参加者:75名(会員46、一般14、PRプランナー(准・補)10、優待5)

●「デジタルメディア・スタディ」

コーポレート・コミュニケーション活動において多様なデジタルメディアの活用に取り組む企業のケーススタディを通じ、企業がいかなる困難を超えて成果を生み出したのか、また課題の設定から解決に導くために求められる企画、構築、運用などのポイントを習得した。

開催日	講座テーマ	講師
平成 30 年 3 月 13 日 (火)	デジタルメディアが開くコーポレート・コミュニケーションの新時代 ～成功事例にみるデジタルメディアの効果的な活用～	クロスメディア・コミュニケーションズ(株) 代表取締役社長 雨宮和弘氏 参加者:40名(会員29、一般3、PRプランナー(准・補)6、優待2)

・「広報・PRプロジェクト顕彰事例セミナー」

平成 29 年 12 月 6 日に実施された「2017 年度 PR アワードグランプリ」において、最も優れたプロジェクトとして選出された「グランプリ」1 件と「ゴールド」3 件、「シルバー」1 件の合計 5 件の事例について紹介した。講演では、プロジェクトの企画や施策の遂行において工夫したポイント、達成した成果などを受賞関係者から解説いただいた。参加者は 111 名（会員 68、一般 18、PR プランナー（准・補）23、学生 2）。プログラムは以下のとおり。

平成 30 年 2 月 7 日 (水)	開会 「2017 年度 PR アワードグランプリ」について	2017 年度「PR アワードグランプリ」 審査委員長 嶋 浩一郎氏
	●シルバー受賞作品 「7 年間のロコモティブシンドローム啓発運動 ～課題先進国だからこそできたCSVプラッ トフォーム」	エントリー会社・事業主体：ロコ モチャレンジ！推進協議会
	●ゴールド受賞作品 「この国に眠る 女性 300 万人の [潜在労働力] に活躍の場を。主婦を活かす、新・マクドナル ド人事戦略PR」	エントリー会社：(株) 電通／事業 主体：日本マクドナルド (株)
	●ゴールド受賞作品 「聞こえる選挙 東京都議選, 衆議院選特設 サイト」	エントリー会社：(株) 電通／事業 主体：ヤフー (株)
	●ゴールド受賞作品 「FISHERMAN CALL」	エントリー会社：(株) 電通／事業 主体：(一社) フィッシャーマンジ ャパン
	●グランプリ 「ちょうどこの高さ。」	エントリー会社・事業主体：ヤフ ー (株)

・「PRS J 特別シンポジウム」

定例研究会の規模を拡大し、広報・PRとも関連する社会的かつタイムリーなテーマを設定して開催する比較的に規模の大きいセミナー。協会会員にとどまらず、広く一般にも聴講を募り開催する予定だったが、平成 29 年度は登壇予定者の日程などを確保できず、開催を見合わせた。

3. 「PRプランナー試験対応講座」

PRプランナー資格認定検定試験（1次試験・2次試験・3次試験）の受験者を対象に「PRプランナー認定資格」の取得を目的に、講義や演習を通じて合格に必要な広報・PRの知識やスキルの習得を目指し、PRプランナー資格認定検定試験に合格できる実力を養成する講座。講座当日の会場での参加が難しい方向けに、Webでの受講も可能とした。

・「1次試験対応講座」

本講座は、PRプランナーを志す皆様の登竜門となる1次試験の合格を目的とし、合格に必要なとなる広報・PRの基礎知識の習得に向けて、夏期と冬期の各々全4回で開講した。講座では、1次試験の対象となる幅広い領域を4つに分け、4回の講義により解説を行った。また、実践的な対策となるよう模擬試験問題を配布し、受講者各自の学習への取組みを奨励した。参加者は夏期 会場受講 32 名（会員 12、一般 19、学生 1）、Web受講 23 名（会員 3、一般 19、学生 1）、計 55 名。冬期 会場受講 34 名（会員 11、一般 20、学生 3）、Web受講 25 名（会員 5、一般 20）、計 59 名。各々のプログラムは以下のとおり。

【夏期】

開催日	講座テーマ	講師
平成 29 年 7 月 13 日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックリレーションズの基本 ・企業経営と広報・PR活動 ・行政、団体等の広報活動 ・広報・PRマネジメント 	(株)プラップジャパン 阿部哲夫氏
7 月 19 日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションとPR ・メディアリレーションズ ・マーケティングとPR 	(株)プラップジャパン 阿部哲夫氏
7 月 26 日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・インベスターリレーションズ ・エンプロイヤーリレーションズ ・広報・PRにおけるインターネットの活用 	(株)エイレックス 畑山 純氏
8 月 2 日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・国際広報 ・企業の危機管理 ・経営倫理とプロフェッショナリズム 	(株)エイレックス 畑山 純氏

【冬期】

開催日	講座テーマ	講師
平成 30 年 2 月 1 日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックリレーションズの基本 ・企業経営と広報・PR活動 ・行政、団体等の広報活動 ・広報・PRマネジメント 	(株)プラップジャパン 阿部哲夫氏
2 月 6 日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションとPR ・メディアリレーションズ ・マーケティングとPR 	(株)プラップジャパン 阿部哲夫氏
2 月 14 日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・インベスターリレーションズ ・エンプロイヤーリレーションズ ・広報・PRにおけるインターネットの活用 	(株)エイレックス 畑山 純氏
2 月 21 日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・国際広報 ・企業の危機管理 ・経営倫理とプロフェッショナリズム 	(株)エイレックス 畑山 純氏

・「2次試験対応講座」

PRプランナー2次試験の合格に向けて、受験に必要な科目のポイントについて履修する、インターネットを活用したオンデマンドのWeb講座。PRプランナー2次試験の試験範囲となる「科目A」「科目B」「科目C」「科目D」について、全14章にわたり、要点と参考問題、その解説を交え、ポイントについて履修する。「科目D」については、試験問題の出題範囲を解説し、これからの試験に活用できる出題傾向を習得する。平成25年度2月24日から販売を開始したが内容の改定の為平成29年度5月で公開を停止した。受講者は平成29年度5月31日までで全科目受講12名、1科目受講2名。

・「3次試験対応講座」

PRプランナー資格の取得における最難関である3次試験の合格に必要な知識やスキルを短期間で確実に身に付けることを目的として開講した講座。「ニュースリリースの作成」、マーケティング及びコーポレート各分野に関する「広報・PR計画の立案作成」について、それぞれ2週にわたる講義と演習で構成されており、試験の合格にフォーカスした実践的な内容を特徴としている。夏期と冬期の各々全6回で開講した。

参加者は夏期 会場受講22名（会員10、一般8、PRプランナー（准・補）4）、Web受講35

名（会員1、一般34）、計57名。

冬期 会場受講29名（会員17、一般9、PRプランナー（准・補）3）、Web受講75名（会員7、一般68）、計104名。

各々のプログラムは以下のとおり。

【夏期】

開催日	講座テーマ	講師
平成29年 6月8日 (木)	「ニュースリリースの作成」	(株)電通パブリックリレーションズ 青田浩治氏
6月14日 (水)		
6月21日 (水)	「広報・PR計画の立案作成 (マーケティング課題)」	(株)オズマピーアール 野村康史郎氏
6月28日 (水)		
7月5日 (水)	「広報・PR計画の立案作成 (コーポレート課題)」	(株)井之上パブリックリレーションズ 高野祐樹氏
7月12日 (水)		

【冬期】

開催日	講座テーマ	講師
平成29年 12月5日 (火)	「ニュースリリースの作成」	(株)電通パブリックリレーションズ 青田浩治氏
12月13日 (水)		
12月20日 (水)	「広報・PR計画の立案作成 (マーケティング課題)」	(株)オズマピーアール 野村康史郎氏
12月26日 (火)		
平成30年 1月10日 (水)	「広報・PR計画の立案作成 (コーポレート課題)」	(株)井之上パブリックリレーションズ 高野祐樹氏
1月15日 (月)		

・新春PRフォーラム

平成29年度は新春特別講演として平成30年1月25日（木）、現代中国研究家の津上俊哉氏を講師に迎え、「大胆予測 2050年の日本と東アジア～チャイナウォッチャーの視点から」をテーマにご講演いただいた。参加者は80名（会員72、一般8）。

開催日	講座テーマ	講師
平成30年 1月25日 (木)	大胆予測 2050年の日本と東アジア～ チャイナウォッチャーの視点から	現代中国研究家 津上俊哉氏

・PRプランナー資格制度10周年事業

- ・PRプランナー資格認定制度が今年で10周年を迎えることを記念する事業として、経済広報センターと日本広報学会の協力により、特別シンポジウムを3月1日（木）、東京の如水会館で開催した。
- ・特別シンポジウムでは、「社会をつなげる、未来を動かす ～ A Future Vision of Public Relations」を全体テーマとし、高度化・複雑化が進む情報環境におけるパブリックリレーションズの可能性と課題とを、日本を代表するPRパーソンに語っていただいた。
- ・基調講演には、広報部門長の経験をお持ちの経営者である、アサヒグループホールディングス株式会社 代表取締役会長 兼 CEO(当時) 泉谷 直木 様にご登壇いただき、経営視点からの広報・PRセクションや人材への期待についてご示唆をいただいたほか、最前線の広報・PR部門長のパネルディスカッションでは、広報・PRセクションに求められる人材像やキャリア形成などについて語っていただいた。また、すでに2,300人を超えるPRプランナー有資格者の代表者から、これからの時代への矜持と志を語る「PRプランナー宣言」を行い、「広報・PRの未来像と、これからの時代の要請に応えるPRプランナー像」を提言し、広報・PRパーソンの重要性の認識を高めていただく場として、広報・PRに携わる方や、関心のある多くの方々にご参加いただいた。またマスコミに取材を働きかけ、日経・読売・毎日新聞、広報会議などでの掲載に繋がった。
- ・プランナー部会としてはPRプランナー10周年を記念しての「社会をつなげる、未来を動かす A Future Vision of Public Relations」において、PRプランナーが有するスキルや、コミュニケーション力、倫理観といったパブリックリレーションズに関する専門性への理解を促し、PRプランナー自らもその目指すべき方向への認識を高めることで、活躍機会の拡大を目指す取り組みとして、「PRプランナー宣言」を策定、発表した。また併せて、PRプランナー資格制度10年の歩みを振り返り、PRプランナーの人柄を紹介する動画を作成し、PRプランナー制度および協会としての取り組みへの理解促進を図った。

・PRプランナーフォーラム

PRに精通した専門人材の養成、組織化、拡大を図ることを目的に、PRプランナーのニーズに即した教育プログラムを提供した。従来のPR実務領域のみに特化せず、マーケティング・コミュニケーションなどPRを軸足に広くトレンドを取り入れ、PRパーソンとしての幅・奥行を持たせるための教育プログラムを東京で年2回、大阪で年2回開催した。また前年度に引き続きPRプランナーによる紹介制度を導入し、資格取得者以外のPR関係者にも門戸を開くことで、PRプランナー資格取得者の拡大につなげた。

プログラムは以下の通り。

開催日	講座テーマ	講師
平成 29 年 7 月 26 日 (水)	第 9 回 コミュニケーションの達人に学ぶ、「聴く力」の重要性について ～顧客・社会の声を聴くことから共感が生まれ、企業・組織の価値向上へとつながっていく～ (ワークショップ形式)	(株)貞雄 代表 土谷貞雄氏 (株)ヤマハミュージックジャパン おとまちプロデューサー 佐藤雅樹氏 参加者:22 名
平成 29 年 9 月 27 日 (水)	第 10 回 「選ばれ続ける必然」を作り出す企業ブランディングの進め方 (第一部：印刷博物館見学、第二部：講演)	凸版印刷(株) 広報部 ブランディング・ディレクター 佐藤圭一氏 参加者:50 名

【PRプランナーフォーラム（関西）】

開催日	講座テーマ	講師
平成 29 年 12 月 13 日 (水)	第 5 回 Jリーグ・ガンバ大阪のスポーツエンターテイメントにおける魅力と地域貢献 (第一部:吹田サッカースタジアム見学、第二部:講演)	(株)ガンバ大阪 営業部長 伊藤慎次氏 参加者:13 名

平成 30 年 3 月 13 日 (火)	第 6 回 読売新聞大阪本社視察および、マスコミからみた広報担当者への期待	読売新聞大阪本社役員室 広報宣伝部部長 戸田博子氏 参加者:26 名
----------------------------	------------------------------------------	------------------------------------------

・ 定例会

今日のテーマを選定し、マスコミ（海外メディアも含む）を中心に有識者など、各界から旬の講師を招いて講演会と参加者相互の懇親交流会を実施し、併せて屋外活動の一環として、旬のスポット「見学会」を企画運営した。年間 8 回を目標に、広報業務の研鑽と会員相互の交流・親睦を図ることを目的に開催した。延べ 221 名（会員 186、一般 35）（1 回あたり約 28 名）。

開催日	講演テーマ	講師
平成 29 年 4 月 26 日 (水)	第 254 回 「新聞の信頼性について～過去の誤報の検証を通じて」近畿大学東大阪キャンパス「ACADEMIC THEATER」見学会	近畿大学 総務部長 世耕石弘氏 参加者 30 名(会員 26、一般 4)
5 月 26 日 (金)	第 255 回 「朝鮮半島の情勢と展望」	龍谷大学 社会学教授 李 相哲氏 参加者 22 名(会員 16、一般 6)
6 月 23 日 (金)	第 256 回 「英国のEU離脱と今後の欧州情勢」	摂南大学 経済学部長 久保広正氏 参加者 22 名(会員 20、一般 2)
9 月 21 日 (木)	第 257 回 「朝日放送の報道と広報戦略」	朝日放送 経営戦略室長 井上隆史氏 参加者 39 名(会員 36、一般 3)
10 月 20 日 (金)	第 258 回 「ダイビル見学会」	松岡正展広報課長(概要説明) 上田貴幸・建設技術統括部技術課長 参加者 26 名(会員 23、一般 3)
12 月 13 日 (水)	第 259 回 「習近平体制と今後の日中、米中関係」	評論家 石 平氏 参加者 25 名(会員 17、一般 8)
平成 30 年 2 月 23 日 (金)	第 260 回 「情熱大陸・20年の歩みを振り返る」	MBS企画 社長 河村盛文氏 参加者 37 名(会員 32、一般 5)

3月20日 (火)	第261回 「最近の金融経済情勢」	日本銀行 大阪支店副支店長 福地 慶太氏 参加者20名(会員16、一般4)
--------------	----------------------	------------------------------------------------

・2017年度広報基礎講座

新人・新任広報、広報・PR担当者やPRプランナーを目指す人達向けの講座を平成29年度は1日開催で広報とは何か、基礎を確認できる内容として、7月26日(水)開催した。午前中は「新聞記者との付き合い方～相互信頼をどう築くか」をテーマに、午後は「危機管理の基本」および「今なら話せるテレビの裏と表～報道から編成まで」と題して開講した。参加者は参加者15名(会員15、一般0)。講座終了後、交流会を開催した。プログラムは以下のとおり。

開催日	講座テーマ	講師
平成29年 7月26日 (水)	第1講座 「新聞記者との付き合い方～相互信頼をどう築くか」	産経新聞社 特別記者兼論説委員 鹿間孝一氏
	第2講座 「危機管理の基本」	㈱電通パブリックリレーションズ チーフアドバイザー 青木浩一氏
	第3講座 「今なら話せるテレビの裏と表～報道から編成まで」	京都産業大学 教授 脇浜紀子氏

・第30回広報学校

新人・中堅PRパーソンを対象に11月15日(水)・11月16日(木)の2日間にわたり開催した。平成29年度はテーマを「いざ!」という時にどう対応すべきか。リスクコントロール・リスクマネジメントに絞り、濃密な内容の講座で開講した。参加者は18名(会員17、一般1)。2日目の講座終了後、交流会を開催した。プログラムは以下のとおり。

開催日	講座テーマ	講師
平成29年 11月15日 (水)	第1講座 第1部 「フェイクニュースの怖さ～SNSの危機管理」	朝日新聞社 オピニオン編集部 平和博・IT専門記者
	第1講座 第2部 「企業の危機管理～不祥事発生 記者が見た広報の対応」	日本経済新聞大阪本社 経済解説部 編集委員 竹田忍氏
11月16日 (木)	第2講座 「広報とリスクマネジメント」	公認会計士葉山事務所 葉山孝代表
	第3講座 「不祥事発生! テレビ会見の怖さとその対応～2次被害をどう防ぐか」	毎日放送(MBS) コンプライアンス室 エグゼクティブ 兼広報部長 岸本文利氏

・ **拡大関西西部会広報ゼミナール**

8月30日開催予定だったが、講師が直前に事故に遭遇し、急きょ、中止を決定。講師には改めて出講を依頼し、11月の広報学校に出講、第3講座で話を聞いた為、平成29年度は開催しなかった。

・ **新春PRフォーラム関西**

新年のスタートにあたり、内外の話題性のあるテーマと講師を選定して開催。平成29年度は、「中之島をウィーンに～大阪からの文化情報発信」のテーマで開催した。参加者は26名（会員24、一般2）。

開催日	講座テーマ	講師
平成30年 1月17日 (水)	「中之島をウィーンに～大阪からの文化情報発信」	日本テレマン協会 延原武治 CEO

3. パブリックリレーションズに関する人材育成

PRプランナー資格認定制度は、広く社会の発展に寄与するPRパーソンとしての知識、スキル、職能意識を有することを認定し、広報・PR活動の社会的認知の拡大をはかり、広報・PR業務に携わる人材の育成と技能向上に寄与することを目的として、PR関連会社や企業の広報部門のPR担当者はもちろんのこと、将来PR関連業界や広報・PR部門での業務を希望する人やビジネスパーソンに求められる広報・PRに関する知識やスキルを持ちたいと考えている人など、幅広い層の人を対象に、広報・PRの基本的な知識から実践的なスキルまでを問う資格検定試験である。実施要領、合格基準、合格率、参考問題を資格Webサイトに掲載し、広く一般に受験の機会を公開。また、主なPRプランナー取得企業・団体、PRプランナー認定更新者優待対象セミナーなど、試験以外の情報も資格Webサイトを通して一般に公開した。

・ **PRプランナー資格認定制度**

PRプランナー資格検定試験の第20回の2次、3次試験、第21回の1、2、3次試験、第22回の1次試験、それぞれの募集と実施運営、PRプランナー資格認定業務に取り組んだ。第20回資格検定試験において、受験者数は2次試験に265名、3次試験に234名が受験し、結果として234名の2次試験合格者、124名の3次試験合格者となった。また、第21回資格検定試験において、受験者数は1次試験に553名、2次試験に352名、3次試験に252名が受験し、結果として431名の1次試験合格者、293名の2次試験合格者、109名の3次試験合格者となった。平成30年3月に実施した第22回資格1次試験では557名が受験し、424名の1次試験合格者となった。なお、第21回1次試験（8月実施）と第22回1次試験（3月実施）では、初回となる平成19年（2007年）9月に実施した第1回1次試験を除き、それぞれ過去最大の受験申込者、受験者、となった。第20回と第21回の2回の検定試験を通じて、228名のPRプランナー、128名の准プランナー、256名のPRプランナー補が新たに誕生し、結果として、平成29年度末において、累計で2,425名のPRプランナー、957名の准プランナー、2,559名のPRプランナー補が登録されている。当委員会の活動としては成果をあげたものとする。

第1回～第22回1次試験 合格率の推移

試験実施日	申込者数	受験者数	合格者数	合格率
第1回（2007年9月1日）	788名	752名	723名	96.1%
第2回（2008年3月9日）	431名	397名	301名	75.8%

第3回 (2008年8月30日)	417名	379名	282名	74.4%
第4回 (2009年3月8日)	457名	421名	347名	82.4%
第5回 (2009年8月30日)	490名	441名	312名	70.7%
第6回 (2010年3月7日)	423名	371名	311名	83.8%
第7回 (2010年8月29日)	382名	346名	255名	73.7%
第8回 (2011年3月5日)	402名	372名	293名	78.8%
第9回 (2011年8月28日)	403名	371名	269名	72.5%
第10回(2012年3月4日)	446名	399名	298名	74.7%
第11回(2012年8月26日)	452名	419名	310名	74.0%
第12回(2013年3月3日)	493名	450名	270名	60.0%
第13回(2013年8月25日)	508名	470名	345名	73.4%
第14回(2014年3月2日)	498名	447名	295名	66.0%
第15回(2014年8月24日)	464名	432名	308名	71.3%
第16回(2015年3月1日)	466名	422名	258名	61.1%
第17回(2015年8月23日)	480名	451名	376名	83.4%
第18回(2016年3月6日)	462名	419名	208名	49.6%
第19回(2016年8月21日)	552名	516名	414名	80.2%
第20回(2017年3月5日)	587名	529名	417名	78.8%
第21回(2017年8月20日)	589名	553名	431名	77.9%
第22回(2018年3月4日)	611名	557名	424名	76.1%
累計	10,801名	9,914名	7,447名	75.1%

第1回～第21回2次試験 合格率の推移 ※4科目一括のみ

試験実施日	申込者数	受験者数	合格者数	合格率
第1回 (2007年11月11日)	430名	422名	342名	81.0%
第2回 (2008年5月18日)	185名	173名	112名	64.7%
第3回 (2008年11月16日)	166名	148名	84名	56.8%
第4回 (2009年5月17日)	229名	208名	169名	81.3%
第5回 (2009年11月14日)	216名	194名	170名	87.6%
第6回 (2010年5月16日)	242名	226名	186名	82.3%
第7回 (2010年11月14日)	212名	200名	166名	83.0%
第8回 (2011年5月15日)	241名	224名	145名	64.7%
第9回 (2011年11月13日)	194名	180名	139名	77.2%
第10回(2012年5月13日)	216名	197名	137名	69.5%

第11回(2013年1月26日)	236名	212名	143名	67.5%
第12回(2013年5月19日)	232名	210名	156名	74.3%
第13回(2013年11月17日)	286名	253名	197名	77.9%
第14回(2014年5月18日)	233名	208名	147名	70.7%
第15回(2014年11月16日)	255名	220名	143名	65.0%
第16回(2015年5月17日)	235名	205名	151名	73.7%
第17回(2015年11月15日)	298名	264名	176名	66.7%
第18回(2016年5月16日)	205名	185名	171名	92.4%
第19回(2016年11月16日)	317名	277名	219名	79.1%
第20回(2017年5月14日)	288名	265名	234名	88.3%
第21回(2017年11月12日)	393名	352名	293名	83.2%
累計	5,309名	4,823名	3,639名	75.5%

第1回～第21回3次試験 合格率の推移

試験実施日	申込者数	受験者数	合格者数	合格率
第1回(2008年1月19日)	305名	297名	145名	48.8%
第2回(2008年7月26日)	250名	232名	182名	78.4%
第3回(2009年1月24日)	164名	156名	128名	82.1%
第4回(2009年7月25日)	204名	193名	146名	75.6%
第5回(2010年1月23日)	200名	193名	148名	76.7%
第6回(2010年7月24日)	206名	199名	133名	66.8%
第7回(2011年1月22日)	180名	174名	107名	61.5%
第8回(2011年7月23日)	193名	185名	120名	64.9%
第9回(2012年1月21日)	200名	168名	96名	57.1%
第10回(2012年7月21日)	210名	176名	113名	64.2%
第11回(2013年1月26日)	196名	160名	118名	73.8%
第12回(2013年7月27日)	213名	173名	110名	63.6%
第13回(2014年1月25日)	205名	171名	132名	77.2%
第14回(2014年7月26日)	154名	148名	109名	73.6%
第15回(2015年1月24日)	136名	128名	84名	65.6%
第16回(2015年7月15日)	142名	138名	89名	64.5%
第17回(2016年1月23日)	164名	154名	93名	60.4%
第18回(2016年7月23日)	196名	185名	86名	46.5%
第19回(2017年1月21日)	203名	191名	100名	52.4%

第 20 回(2017 年 7 月 22 日)	246 名	234 名	124 名	53.0%
第 21 回(2018 年 1 月 20 日)	264 名	252 名	109 名	43.3%
累計	4,231 名	3,907 名	2,472 名	63.3%

(1) 実施運営

- ・第 20 回の 2 次、3 次試験、第 21 回の 1 次、2 次、3 次試験、第 22 回の 1 次試験の募集と実施運営、資格認定業務に取り組んだ。第 20 回 2 次試験は東京・大阪・福岡で、第 21 回 1 次試験は、東京・大阪・札幌・名古屋で、2 次試験は、東京・大阪・名古屋で、第 22 回 1 次試験は東京・大阪・福岡でそれぞれ実施した。3 次試験は第 20 回を東京・大阪で、第 21 回を東京のみで実施した。
- ・申込受付、試験運営、試験問題作成および採点業務などは事務局、資格委員、試験委員および外部委託会社と一体となって取り組んだが、3 次試験の採点評価などについては、引き続き会員各位の協力を得て取り組んだ。

(2) 広報普及

- ・主に第 21 回、第 22 回の 1 次試験実施に向けて会員各位の協力を得た上で、会員社社員の受験促進に取り組んだ。あわせて、日本広報学会、大学などの関係機関、外部セミナー機関などを通じて学生、一般社会人への受験を積極的に働きかけた。さらに企業の教育プログラムでの推薦資格として位置付けられないかなど、人材開発、人事部へのアプローチを行った。
- ・平成 29 年度も 28 年度に引き続き、PR プランナー合格者の声、実施要項、参考問題、取得企業などの情報をまとめた広報普及ツール「PR プランナーの PR 誌」を更新し、広報領域の大学関係者への働きかけと、地方会場のさらなる広報普及に役立てた。
- ・平成 28 年度と同様に、資格 Web サイトや協会ニュースでの告知や、資格取得に関心のある読者層をターゲットにした媒体への広告出稿などに取り組んだ。特に一般社会人への告知が重要であるとの認識で広報普及活動を展開し、長期、安定的な受験につなげた。
- ・Web 媒体を含めた一般マスコミに対しても、活躍している PR プランナーの紹介など、様々な切り口での取材を働きかけ、PR プランナーの認知度向上、ステータス向上に向け、同時に協会自体のアピールにも寄与した。
- ・資格 Web サイトに設置されている PR プランナー取得者向けページ「PR プランナーの広場」に、PR プランナー取得者の声「VOICE of PR Planner」や、資格の公式 Facebook 更新など、さらなる普及に努めた。

(3) 試験問題の作成および採点

- ・より公正で納得性の高い検定試験を目指して、試験問題の作成に取り組んだ。特に試験問題の品質の向上と水準の安定化を図るため、過去問題の正答状況などの結果分析をもとに、それらを反映した試験問題の作成に取り組んだ。
- ・難易度の高い 3 次試験に関しては、採点基準の一層の安定化を目指すために、さらなる採点の標準化に取り組んだ。
- ・前年度から継続して、中長期における PR プランナー試験項目内容の見直しについての検討を行った。

(4) 試験体系の検討

- ・平成 29 年度は、原稿制度の最上位資格である「PRSJ 認定 PR プランナー」の、さらなる上位資格の可能性について、委員会内で制度検討を行った。引き続き平成 30 年度も継続して検討を行う。

(5) 試験項目の見直しと参考図書の改訂

- ・平成 29 年度は新試験体系の策定と新試験体系に対応した新テキストの編集作業に取り組んだ。

- ・新テキスト編集作業では、1次テキストと2次・3次テキストを、執筆者から提出された原稿を広報・PRを取り巻く環境変化に対応するよう必要な部分について、複数回の校正を重ね、内容を編集した。1次テキストは第4校、2次・3次テキストは第3校まで、作業を完了した。
- ・新試験項目は、1次試験項目と2次試験項目の整理と記載内容の深さ（難易度）の両面から調整作業を行った。
- ・今後は、平成30年度刊行に向け、さらなる編集と調整を行う。

・PRプランナー交流会

PRプランナー同士のネットワーキングの支援を目的に、交流活動を企画実施した。夜間開催の「PRプランナー交流会」に加え、好評であった「朝活セミナー&交流会」を開催、働き方の多様化を踏まえ、参加者層の拡大を図った。また、より具体的なテーマで密なる交流へのニーズの高まりにも対応し、テーマや業界を絞った交流企画も実施した。プログラムは以下のとおり。

開催日	内容	講師
平成29年 5月23日 (火)	第16回 NHKスタジオパーク見学と同局広報部 による講演	日本放送協会広報局広報部 副部長 臼井正徳氏 参加者:42名

【PRプランナー朝活セミナー&交流会】

開催日	内容	講師
平成29年 4月18日 (火)	ミニ交流会 PRプランナー限定フリーランス同士の交流会	参加者:10名
4月26日 (水)	第4回 フジテレビ「ホウドウキョク」チーフプロデューサーによるメディア勉強会「フジテレビはホウドウキョクでどこを目指すのか?」&交流会	(株)フジテレビジョン 報道局マルチデバイスニュースセンター解説編集部 ホウドウキョク チーフプロデューサー 磯島康郎氏 参加者:26名
12月5日 (火)	第5回 写真撮影のプロから学ぶ「PRパーソンが知って得する写真撮影法」勉強会&交流会	ストーリーテリング(合)代表執行役員 平野安健(タカヤ ヤスタケ)氏 参加者:17名

4. パブリックリレーションズに関する顕彰

会員・非会員の優れた広報・PR活動や協会運営に貢献した功労者などを顕彰することにより、広く一般にパブリックリレーションズに対する一層の理解促進を図り、協会活動を広く知らしめることを目的としている。平成29年度も実施要項などを協会Webサイトに掲載し、受賞者及び受賞作品はニュースリリース、Webサイト及び協会出版物等で広く公開した。

・日本PR大賞

PRに対する理解促進を目的に、平成29年度も「2017年度 日本PR大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー」及び「2017年度 日本PR大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー」を選考し、顕彰した。

・「日本PR大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー」

日本PR大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤーは、さまざまな分野で活躍した人の中から、1年を通じてその話題性や好感度の高さ、さらに活動を通じてPR本来の目的である“公益に資する”という観点から、最も活躍し、さらに貢献度の高かった人を表彰する制度で、協会メンバーの投票の結果、2017年度は加藤一二三氏（棋士）を選出、表彰することを決定した。

受賞者	受賞理由
加藤一二三氏 (棋士)	1954年に当時の最年少・史上初の中学生プロ棋士となって「神武以来の天才」と称されて以来63年間、第一線で戦い続け、2017年に惜しまれつつ引退。引退後は「ひふみん」の愛称で、さまざまなメディアにおいて将棋への情熱を独特の語り口で訴える姿は、将棋を知らない人たちに対しても広く関心を喚起し、平成における将棋ブームを牽引する原動力となった。

・「日本PR大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー」

日本PR大賞「シチズン・オブ・ザ・イヤー」は、長きにわたって独創的な事業活動、さらにPR活動を実践しながら、広く社会や地域の発展に大きく貢献している企業や団体を対象に選考する制度で、協会メンバーによる投票の結果、2017年度は特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会を選出、表彰することを決定した。

受賞者	受賞理由
特定非営利活動 法人日本ブラ インドサッカー協 会	ブランドサッカーを通じて、視覚障がい者と健常者が当たり前に混ざり合う社会を実現することという明確なビジョンのもと、16年以上にわたり、視覚障がい者スポーツの「ブラインドサッカー」の普及・定着化のために活動している。活発な情報発信、オープンな情報開示姿勢、コンテンツづくりの多様性など、PRの観点からも学ぶところが大きい。

・「PRアワードグランプリ」

一般企業およびPR関連会社より、当年度のコミュニケーション活動（広報・PR活動）事例を広く募集し、審査を通して優秀な活動を表彰・公開することを通じ、わが国におけるコミュニケーション技術の質的向上およびパブリックリレーションズに対する一層の理解促進を図った。前年度に引き続き、企業広報やPR関連会社で高い実績と経験を備えた9名の審査員団が、エントリー全作品を書類段階からグランプリ選出まで一貫して選考に当たった。さらに最終審査となるグランプリ選出審査では、審査員団に加えて特別審査員が審査に参画し、PRのプロフェッショナルが部門の枠を超えて、PR業務の最高峰を選出するアワードの実現を目指した。また、前年度同様、経済産業省、日本広報学会、公益社団法人日本広報協会の後援をいただいた。平成29年度は以下の5部門での募集となった。

- (イ) コーポレート・コミュニケーション部門
- (ロ) マーケティング・コミュニケーション部門
- (ハ) ソーシャル・コミュニケーション部門
- (ニ) インターナル・コミュニケーション部門
- (ホ) 調査・研究部門

9月1日（金）～10月24日（火）までの応募期間で、本年度のエントリー応募総数は75作品。各部門のエントリー数は以下のとおり。

- コーポレート・コミュニケーション部門 : 15作品
- マーケティング・コミュニケーション部門 : 36作品
- ソーシャル・コミュニケーション部門 : 16作品
- インターナル・コミュニケーション部門 : 3作品
- 調査・研究部門 : 5作品

なお、非会員からの応募は11作品であった。11月15日(水)に審査団によるグランプリ候補作審査会を開催した。ここで審議した結果、シルバー以上8作品とブロンズ7作品が決定し、12月6日(水)のグランプリ選出審査会での発表となった。

グランプリ選出審査会は、12月6日(水)六本木アカデミーヒルズ49「オーディトリウム」で開催され、特別審査員3名・審査団9名により審査が行われた。その結果、2017年度は、ヤフー㈱の「ちょうどこの高さ。」がグランプリに決定した。各賞の受賞作品は以下のとおり。

賞	活動の名称	エントリー会社
グランプリ	「ちょうどこの高さ。」	ヤフー㈱
ゴールド	「この国に眠る女性 300 万人の [潜在労働力] に活躍の場を。 主婦を活かす、新・マクドナルド人事戦略 P R」	㈱電通
ゴールド	「聞こえる選挙 東京都議選, 衆議院選特設サイト」	㈱電通
ゴールド	「FISHERMAN CALL」	㈱電通
シルバー	「WITH STAMP (=Your name with REDLIST Animals)」	㈱アサツーディ・ケイ PARTY
シルバー	「「業界の壁」を取り除く日本気象協会の共創型 BtoB コミュニケーション「気象」×「ビジネス」でサプライチェーン全体の位置づけを変える！」	日本気象協会 ㈱オズマピーアール
シルバー	「一般社団法人日本アンガーマネジメント協会 P R・プロモーションプロジェクト」	㈱サニーサイドアップ
シルバー	「7年間のロコモティブシンドローム啓発運動～課題先進国だからこそできた CSV プラットフォーム～」	ロコモ チャレンジ! 推進協議会
ブロンズ	社歌で中小企業を元気に! 中小企業、支援プロジェクト	㈱電通パブリックリレーションズ ㈱電通
ブロンズ	PR パーソン生まれの“味のメディア化” 『プリウス試乗味プロジェクト』	㈱電通 ㈱電通パブリックリレーションズ
ブロンズ	Banana Message	電通ヤング・アンド・ルビカム㈱
ブロンズ	おいしいプログラミング学習アプリ [GLICODE®]	㈱電通 ㈱電通パブリックリレーションズ
ブロンズ	「定時退社訓練」by よなよなエール ～「働き方改革」に本音とユーモアで一石を投じて、国と企業と生活者を動かせ～	㈱電通デジタル
ブロンズ	LIXIL 「グローバルな衛生課題の解決」に向けて	㈱LIXIL
ブロンズ	TRY! Noodle Cradle 検証! うどんをすする音で本当に赤ちゃんは泣きやむのか?	㈱電通

II. 収益事業（パブリックリレーションズに関する出版物の発行）

・PR Yearbook

協会の活動報告書として、広報・PRの普及浸透を図ることを目的として2017年版「2017 PR Yearbook」を制作した。会員だけでなく広く広報に関わる方々に当協会の活動を理解いただけるように内容を一新した。優れた広報活動と実践者を顕彰する「PRアワードグランプリ」「日本PR大賞」を広報・PRの普及啓発のコアコンテンツとして紹介し、加えて、将来の広報界を担うPRプランナーの育成のための情報を拡充した。さらには協会のみならず広報・PR全体を視野に入れた巻頭企画の充実に注力、そのため2018年版制作に向けて制作体制も広く公募の上新体制とした。協会活動を広め、新会員獲得のためにも積極的に配布を行った。

・広報・マスコミハンドブック（PR手帳）

『広報・マスコミハンドブック（PR手帳）2018年版』（手帳サイズ、266ページ）を平成29年11月22日（水）より、首都圏をはじめ、大阪、名古屋、福岡、札幌など大都市圏の大手書店、およびアマゾンなどのネット書店で発売を開始した。

主要コンテンツと掲載データは以下のとおり。

今を読み解くkeyword／知っておきたいFactdata／「パブリックリレーションズ」の解説／広報業務チェックリスト／PR・IR用語ミニ辞典／PR関連団体／企業の文化施設／主要メディア連絡先一覧／主要サイト一覧／記者クラブ／官公庁・各種団体／イベント会場／2018年記念日カレンダー／海外PRアワード受賞作品 など

内容は常に鮮度の高い情報を提供するため、毎年刷新して実務により役立つ内容を充実させ、最新データに更新している。

前年に引き続きアマゾンを中心に販売は大変好調である。

・PRプランナー資格認定検定試験対応テキストの作成および販売

- ・「広報・PR概論」は平成29年7月に改訂版第8刷を700部、平成30年2月に1,000部をそれぞれ増刷した。これまでに刊行された初版、重版を合わせると、12,200部を出版した。平成29年度3月末時点では、残970部となっている。
- ・「広報・PR実務」は、第6刷を平成29年9月に500部増刷した。これまでに刊行された初版、重版を合わせると、4,800部を出版した。平成29年度3月末時点では、残150部となっている。
- ・過去問題集「広報・PR資格試験問題集 PRプランナー資格認定制度 1次・2次・3次試験過去問題集 2018年版」を平成30年4月刊行に向け編集作業を行った。これまでに刊行された初版、重版を合わせると、8,000部を出版した。平成29年度3月末時点では、2017年増補版は完売となった。

Ⅲ. その他事業（会員の交流事業・会員向けセミナー・研究会および広報活動など）

・会員の交流事業

会員相互の交流促進のために、情報交換や人的交流の場を提供し、会員の人的ネットワーク拡大に寄与した。特に、協会に加盟することのメリットを享受できることを主眼に、平成 28 年度に引き続き、以下の活動を開催した。

・夏季情報交換会

会員相互の交流を通じ、協会の諸活動理解の一助として、毎年開催している。平成 29 年度は、7 月 11 日（火）に新入会員歓迎会と位置づけ、この 1 年間に新規入会された会員の方（含、名義変更）をご招待し、理事をはじめとした既存会員の方と積極的に交流していただく場としてジャルダン・ド・ルセヌで開催した。当日は、各委員会・部会の活動について、プレゼンテーション形式で紹介し、今後、積極的に協会活動に参加していただける機会とし盛況な会合となった。参加者は新入会員 21 名を含む 67 名。

・なでしこカウンスル

女性広報担当者を対象として、広報に携わる女性の研鑽や交流を目的とした企画を実施する研究会。平成 29 年度も 6 月 21 日（水）と 2 月 14 日（水）の 2 回、女性会員及び会員社の女性広報担当者を対象に開催した。28 年 4 月から施行された女性活用推進法の趣旨に鑑み、当協会女性会員の活躍につながる啓発的なプログラムとなった。講師に、女性活躍推進法の施行準備に携わられた厚生労働省職業安定局 派遣・有期労働対策部 企画課 雇用支援企画官 河村のり子氏や経団連初の女性役員として国際的に活躍される BT ジャパン株式会社 代表取締役社長・日本経済団体連合会 審議員会副議長・内閣府規制改革推進会議委員 吉田晴乃氏を講師に迎え、参加者の共感を呼ぶ集まりとなった。
プログラムは以下の通り。

開催日	講演テーマ	講師/参加者
平成 29 年 6 月 21 日 (水)	「女性が「働く」ということ」	厚生労働省 職業安定局 派遣・有期労働対策部 企画課 雇用支援企画官 河村のり子氏 参加者:24 名
平成 30 年 2 月 14 日 (水)	「デジタル時代における女性の活躍」	BT ジャパン(株) 代表取締役社長 日本経済団体連合会 審議員会副議長 内閣府規制改革推進会議委員 吉田晴乃氏 参加者:50 名

・親睦ゴルフ会

平成 29 年度は 4 月 6 日（木）に第 45 回親睦ゴルフ会を嵐山カントリークラブで、11 月 24 日（金）に第 46 回親睦ゴルフ会を小金井カントリー倶楽部で開催した。参加者は第 45 回は 4 組 16 名、第 46 回は 2 組 6 名。

・ 会員向けセミナー／研究会など

・ 定例研究会

マスメディアやオピニオンリーダーなどのキーパーソンを招き、タイムリーなテーマを取り上げて開催している。平成29年度は9回実施、延べ569名（前年520名／8回実施）の参加（1回平均63名）となり、前年と比較すると、結果的に1回平均2名ほどの参加者減だったが、概ね好評のうちに終了した。

開催日	講座テーマ	講師
平成 29 年 4 月 27 日 (木)	第 182 回 「毎日新聞ベテラン編集委員に聞く生活者向け 広報のポイント～食品、医療、美容、健康など生 活関連分野における「正しい広報」	毎日新聞社 生活報道部編集委員 小島正美氏 参加者:63 名
5 月 31 日 (水)	第 183 回 「『ワールドビジネスサテライト』2017 年の番組作 り～WBSがめざすニュース映像の新世界を探る ～」	テレビ東京 報道局次長 経済部長 WBS総合プ ロデューサー 名倉幸治氏 参加者:115 名
6 月 23 日 (金)	第 184 回 「通信社の機能・体制と記者対応の基本～共同 通信ベテラン記者に聞く、広報担当として知って おきたい仕組みと記者対応～」	共同通信社 編集委員兼論説委員 久江雅彦氏 参加者:70 名
7 月 24 日 (月)	第 185 回 「日本企業も斬新な実験的試みを 先進 IT 企業 の取材から見えてきたこと 第1部 新たなビジネスはイノベーションと起業家 育成から 第2部 広報担当者に知っておいてほしい記者 のホンネと事情」	日本経済新聞社 コメンテーター 村山恵一氏 参加者:40 名
9 月 29 日 (金)	第 186 回 「膨大なデータと深掘り取材が創る『週刊ダイヤ モンド』～老舗ビジネス週刊誌の編集最前線を探る～」	ダイヤモンド社 『週刊ダイヤモンド』『ダイヤモンド・オ ンライン』編集長 深澤献氏 参加者:81 名
10 月 31 日 (火)	第 187 回 「C S V時代の社会価値ブランディング～長 期的な社会価値の追求がこれからの企業ブラ ンドを高める～」	一橋大学大学院 国際企業戦略研究科 特任教授 名和高司氏 参加者:51 名
12 月 1 日 (金)	第 188 回 「「WEB 予約×メディア×体験」オズワールドの 取り組み ～「オズモール」から広がるスタート出版のメデ ィア戦略～」	スターツ出版(株) オズモール編集部 編集長 倉持志信氏 参加者:30 名
平成 30 年 2 月 22 日 (木)	第 189 回 「笑いとともにビジネスの核心に迫る TBS の「がっ ちりマンデー!!」 ～経済情報バラエティの魅力と番組制作を探る ～」	(株)TBSテレビ 制作局制作一部 大松雅和氏 参加者:56 名

3月28日 (水)	第190回 「全国紙・社会部の視点と報道 ～毎日新聞社会部長に訊く、企業不祥事対応 のポイント～」	毎日新聞社 編集編成局 社会部長 磯崎由美氏 参加者:63名
--------------	------------------------------------------------------------	-----------------------------------------

・特別国際セミナー

PR担当者の国際的視野育成に寄与するため、海外メディアや海外のソートリーダーを講師にした勉強会を企画・開催した。平成29年度は年4回講演会を開催した。開催概要は以下のとおり。

開催日	講演テーマ	講師/参加者
平成29年 6月13日 (火)	「最新グローバルメディアとPRトレンド・ 現状と課題」	AP通信社 東京支局ニュースディレクター ケン森次氏 国際ジャーナリスト 高橋浩祐氏(前ハフィントンポスト日本版編集 長) 参加者:59名
平成29年 11月7日 (火)	「スパイクスアジアから学ぶPRの潮流」	(株)電通 CDC コミュニケーション・ディレクター 嶋野 裕介 氏 (株)博報堂/(株)TBWA\HAKUHODO ディスプレイラボ 関谷拓巳氏 (株)博報堂 第1クリエイティブ局 谷脇太郎氏 参加者:43名
平成29年 11月30日 (木)	「グローバルなビジネス環境の新たな課 題に応えるパブリックアフェアーズの視 点と実践—進化するソーシャルメディア を活用したコミュニケーションの実例」	APCO Worldwide CEO Brad Staples (ブラッ ド・ステープルズ)氏 参加者:56名
平成29年 3月6日 (火)	「調査レポート「インフルエンサーが購買 行動に影響を与える効果」、ソーシャル メディアおよびマルチ・チャネルコミュニ ケーションにおける リサーチと効果測 定の役割」	アリソン・アンド・パートナーズ パートナー All Told グループ プレジデント キャシー・プランチャード (CATHY PLANCHARD) 氏 参加者:39名

・異文化勉強会

諸外国と日本のPR関係者との関係構築と国際的視野を広げるための勉強の場を提供するため、開催する予定だったが、平成29年度は相応しい内容および日程などが合致せず、開催できなかった。

・企業部会フォーラム

企業部会フォーラムは企業部会会員全体が集う場として、協会活動の理解と参画、会員相互の親睦を目的に会員の直近のニーズをテーマに外部講師を招いた講演会の形式で開催。平成29年度は2回開催した。両回とも終了後に懇親会を開催し、会員同士の交流を深めた。

開催日	講演テーマ	講師/参加者
平成 29 年 10 月 24 日 (火)	第 17 回 「Instagramをはじめソーシャルメディアを活用したバイラルPR施策」	(株)プールサイド 代表取締役社長 関口 舞氏 参加者:26 名
平成 30 年 2 月 28 日 (水)	第 18 回 「オンラインメディア・デジタルコミュニケーションの潮流」	BuzzFeed Japan(株) 創刊編集長 古田 大輔氏 参加者:23 名

・広報活動研究会

企業の広報部門やショールーム、お客様向け施設を訪問し、幅広い視点から、さまざまな活動事例や、組織や業務のあり方を学ぶことで、自社の広報部門における活動に向けたヒントを持ち帰っていただくことを目的として開催。平成 29 年度は各社の協力のもと、2 回開催した。いずれの回も見学後懇親会を開催し、会員同士の交流を図った。

開催日	内 容	
平成 29 年 7 月 12 日 (水)	第 18 回 「日本郵船 歴史博物館&氷川丸の見学とレクチャー」	横浜のシンボルといっても過言ではない重要文化財「氷川丸」と「日本郵船 歴史博物館」を訪問。歴史博物館・氷川丸グループ大須賀 由紀グループ長から日本郵船の広報活動についてうかがった。堀江 誠館長代理からは歴史博物館の概要についてのレクチャーを賜った。 参加者:12 名
11 月 10 日 (金)	第 19 回 「NHK放送博物館 見学会」	1956年に開館した世界最初の放送専門のミュージアムであるNHK放送博物館の見学と放送文化研究所の鈴木郁子所長による放送文化研究所の事業内容や民放のネット戦略などについての講演を実施した。 参加者:25 名

・広報ゼミ

広報ゼミは、企業内での広報部門の地位向上、またスキル向上を目指し、毎回共通テーマで議論するゼミナール形式の勉強会。平成 29 年度は 4 回開催した。各回とも終了後懇親会を開催し、参加メンバーでさらに議論を深めた。

開催日	テーマ	内 容
平成 29 年 5 月 29 日 (月)	第 26 回 「企業サイトマネジメント」	アンダーワークス(株)代表取締役社長田島学氏、パナソニック(株)グローバルコミュニケーション部プラットフォームデザイン課リーダー荒岡倫代氏、(株)NTTデータ広報部課長田中洋之氏の 3 名を講師に迎え「企業サイトマネジメント」をテーマとし、広報業務において重要性が増してきた企業 Web サイトについて、日々進化する Web 環境への対応や、SNS の活用、Web ガバナンスなどに関しご講演いただいた。 参加者：45 名

7月31日 (月)	第27回 「インターナルコミュニケーション～ いかにしてトップメッセージを浸透さ せるか～」	日本発条(株)企画管理本部総務部広報グループ主 査 斉藤浩明氏、日本交通(株)管理本部広報担当課長 野村貴史氏、(株)京王プラザホテル代表取締役社 長 山本護氏の3名を講師に迎え「いかにして トップメッセージを浸透させるか」をテーマと し、社長と全社員の距離を縮め、ある時は双方 向のやり取りで、いかに全社員にトップメッセ ージを浸透させるか？発信手段や発信内容、浸 透度の確認方法などに関しご講演いただいた。 参加者 38名
9月21日 (木)	第28回 「～Global Communication～インバ ウンド×官民タイアップ・企業広報 の力は訪日外国人を地方に呼び 込む鍵？」	スターブランド(株)の共同経営者である村尾隆介 氏、愛媛県/経済労働部/観光交流局長の宮本泉 氏、ミズノ(株)/営業本部北東北支社所長補佐の川 久保浩之氏、富士ゼロックス(株)/復興推進室長の 樋口邦史氏をお招きし、官民タイアップによる インバウンド広報の可能性について講演や事例 報告、パネルディスカッションを行った。 参加者:25名
平成30年 2月15日 (木)	第29回 「Corporate Communication Mana gement＝経営視点のコーポレート コミュニケーション ～西武ホール ディングス広報部の現場から～」	(株)西武ホールディングス取締役上席執行役員 西山隆一郎氏を講師に迎え経営視点のコーポレ ートコミュニケーションをテーマにご講演いた いただいた。今回の広報ゼミは、講師と参加者がフ ランクに会話ができるよう、初の試みとして少 人数でテーブルを囲み講演を聞き、講演終了後 に食事を交えて意見交換を行った。 参加者:16名

・若手の育成について

PR業各社にとって、市場の拡大と質の向上の大事なポイントとして<若手育成>をテーマに掲げ実施プログラムの検討を図った。

・育成に関してアンケート調査の実施

会員各社が若手育成にどのように取り組んでいるか、さらに育成に関してアンケート調査を実施し25社から回答をいただいた。今後はアンケートをもとに活動の構造を考えていく。

・ワイガヤ会

PR業に携わる中堅、若手を対象に、当協会のアドバイザーボードのメンバーが、参加する若手PRパーソンと率直なコミュニケーションを図り、普段の仕事の悩み相談に乗ったり、所属企業を超えた横の繋がりを作っていただくための、業界の底上げをするための場として開催した。平成29年度は11月2日(木)と3月7日(水)の2回開催した。参加者は11月が14名、3月は34名。

・PRスキル研究会

広く要望テーマや持ち込み企画を募り、ニーズの高いタイムリーなテーマで内容の充実を図り参加者の拡大を目指した。また、一方的なセミナーだけではなく、活発な意見交換や検討の場となるような場づくりを図った。平成29年度は2回開催した。

プログラムは以下のとおり。

開催日	講演テーマ	講師
平成 29 年 7 月 12 日 (水)	第 40 回 「ファンやアンバサダーを重視したクチコミ 施策:アンバサダープログラム」	(株)宣伝会議 「広報会議」編集長 森下郁恵氏 参加者:38 名
平成 30 年 2 月 27 日(火)	第 41 回 「パブリックアフェアーズ～入門編～」	マカイラ(株) 代表取締役 藤井宏一郎氏 参加者:43名

・ P R 経営者懇談会

P R 業に携わる経営者が一堂に会し、P R 業の抱える悩みや課題、さらには事業の可能性、将来性まで飲食を含め、2 時間半、じっくり話し合う場として設定した。平成 29 年度は 1 回実施した。プログラムは以下のとおり。

開催日	講演テーマ	講師
平成 29 年 10 月 17 日 (火)	「未来の働き方深求と実現プロセス 世界 事例から軸足を成長戦略へ」	(株)リクルートホールディングス 働き方変革推進室 エバンジェリスト 林 宏昌氏 参加者:23 名

・ 他団体などの交流事業

・ 他団体などとの交流並びに協業

P R 協会以外の関連諸団体等との交流を図り、会員の活動の場並びに広報・P R 周辺領の場を広げ、啓発並びにネットワーキングに資する活動を行うことを目的とし、特に、協働しての企画・実施を掲げる日本広報学会との交流はこれまで同様前向きに展開していくよう検討協議し、次年度へ継続する事とした。

・ 海外研修と海外情報収集及び会員向け情報提供

- ・ 会員の国際的視野拡充のための啓発活動として、また海外の広報関係者との国際交流の機会として、適宜海外研修旅行を企画・実施している。国際化対応 5 年計画における柱の一つとして、渡航先の広報関連諸団体やメディア訪問も組み込み、交流と関係作りにも役立てる。平成 28 年度に実施したニューヨーク視察旅行参加者アンケートをもとに、次回の企画を立案中。
- ・ 海外の P R に関する情報や最新のトレンドなどを収集し、会員に情報提供することで、会員の国際的視野拡充に役立てるとともに、特別国際セミナーや海外研修などのグローバル関連企画との連携を図っている。

・ 広報活動

・ 協会ニュース

平成 28 年度も毎月 1 回（8 月度は除く）計 11 回会員にメールで配信した。また、Web サイトには広く一般の人々も閲覧できるように、会員限定掲載記事を除いたものを掲載した。会員が役立つ有効な情報を迅速に発信することを目的に、会員メリットを感じてくれるような内容にしていくよう努めた。また、アワード等大きなテーマがあるときは構成を変えて巻頭に展開するなど読んでいただく工夫も重ねている。

・ Web サイト・ソーシャルメディア

会員に対する情報提供にとどまらず、公益法人として公益に資するためにコンテンツの充実や新たなサービスの提供など、広報活動の強化・改善を行った。また、アクセス状況を定期的に把握・分析しながら、協会広報の強化ならびに会員に対しては更なるメリットを創出できるコンテンツやサービス開発に注力し、非会員に対しては協会の認知度を高めるように検討を続けた。

特に SNS での発信を充実させるために広報委員会独自の Facebook への各員会、部会からの投稿を促進させるよう簡易なチェックシステムを構築、協会としての発信力強化に向けて注力している。また、平成 29 年度においては、協会の英文ウェブサイトの改訂に着手し、倫理要綱や NEWS TOPICS など核となる英文コンテンツを企画、作成、掲載した。

・ メディアリレーションズ

デジタルメディアやソーシャルメディアの出現により、コミュニケーションの形が大きく変化してきている。パブリックリレーションについても同様であり、今日的なあり方を求め、紙メディアに加えてデジタルメディアとの意見交換を行った。さらにリレーションの深耕と協会会員との接触機会拡大のために、委員会や部会が主催するセミナーやフォーラムの講師とし招聘。レギュラーでコーナーを持っている「広報会議」には具体的な活動を満遍なく掲載できるように出稿、「広報会議」読者にも協会活動への理解を深めていただくよう努力している。

配信日	ニュースリリース
平成 29 年 6 月 13 日	「2017 PR Yearbook」発刊 ～パブリックリレーションズのこれからを展望する一冊に～
7 月 5 日	PR 売上高（2016 年度）は 1, 016 億円 前回調査（2015 年）に比べ 7. 2% の伸び
8 月 17 日	2017 年度「PR アワードグランプリ」9 月 1 日からエントリー募集開始
11 月 16 日	2017 年度「PR アワードグランプリ」「ブロンズ」受賞 7 エントリーを決定 「グランプリ」「ゴールド」「シルバー」の各賞を 12 月 6 日（水）開催の最終選考会で選出・決定
11 月 21 日	広報・PR パーソン必携『広報・マスコミハンドブック（PR 手帳）2018 年版』を刊行
12 月 8 日	「ちょうどこの高さ。」（ヤフー（株））が『グランプリ』を受賞『ゴールド』3 作品、『シルバー』4 作品も決定
12 月 26 日	「日本 PR 大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー」に加藤一二三氏（棋士） 「日本 PR 大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー」に日本ブラインドサッカー協会 -2017 年度日本 PR 大賞が決定-
平成 30 年 2 月 9 日	「社会をつなげる、未来を動かす ～ A Future Vision of Public Relations」 PR プランナー資格制度創設 10 周年記念 特別シンポジウムを 3 月 1 日（木）に開催

また、メディアなどから取材を受けた情報、掲載された情報は以下のとおり。

掲載日	媒体名	内 容
平成 29 年 4 月 1 日 (土)	「月刊広報会議」 5 月号	当協会連載コラムで「第24回広報ゼミ」NET炎上 レクチャー&ワークショップをテーマとした勉強会に関する内容を紹介。
4 月 1 日 (土)	「月刊広報会議」 5 月号	特別企画「PR 業界をリードするプレイヤーに聞く 未来予測とキーワード」で、当協会の近見竹彦理事長の投稿記事が掲載。
5 月 1 日 (月)	「月刊広報会議」 5 月号	当協会連載コラムで、国際・交流委員会が主催し実施した米国研修旅行の様相を紹介。
6 月 1 日 (木)	「月刊広報会議」 7 月号	当協会連載コラムで、4 月 11 日から 13 日にかけて教育委員会が主催し開講した「広報・PR スタートアップ講座」について紹介。
6 月 30 日 (金)	「月刊広報会議」 8 月号	当協会連載コラムで、PR プランナー部会が主催する「第 16 回 PR プランナー交流会」について紹介。
7 月 10 日 (月)	「週刊企業と広告」	当協会が公表した2016年度の「PR 業実態調査」について記事が掲載。
7 月 20 日 (木)	「CM通信」	当協会が実施した「PR 業実態調査」の概要が1ページにわたる記事が掲載。
8 月 1 日 (火)	「月刊広報会議」 9 月号	当協会連載コラムで、国際・交流委員会が主催して開催した2017年度第1回の「なでしこカウンスル」について紹介。
8 月 1 日 (火)	「月刊広報会議」 9 月号	特集「PR 会社活用ガイド」のなかで、当協会が実施した「PR 業実態調査」に関し1ページにわたってそのポイントが掲載。
8 月 28 日 (月)	「CM通信」	今年度実施する「PR アワードグランプリ」の募集開始について1ページにわたる記事が掲載。
9 月 1 日 (金)	「月刊広報会議」 10 月号	当協会連載コラムで、「2017 年度PR アワードグランプリ」の募集について紹介。
10 月 1 日 (日)	「月刊広報会議」 11 月号	当協会連載コラムで、発足 10 周年を迎えた「PR プランナー資格制度」について紹介。
10 月 7 日 (土)	「日経WOMAN」11月号	PR プランナー資格を取得し、活躍している女性広報・PR 担当者を紹介する企画記事を掲載。
11 月 1 日 (水)	「月刊広報会議」 12 月号	当協会連載コラムで、「アンバサダープログラム」をテーマとして開催したPR スキル研究会の様相について紹介。
11 月 1 日 (水)	「月刊 Gift Premium」 11 月号	当協会が実施した「PR 業実態調査」の結果についての記事が掲載。
12 月 1 日 (金)	「月刊広報会議」 1 月号	当協会連載コラムで、「PR 手帳 2018」の発刊について紹介。
12 月 1 日 (金)	「月刊広報会議」 1 月号	1月号のコーナー「INFORMATION」で、当協会の「2017年度PR アワードグランプリ」の最終審査における審査対象候補8点の選出を11月16日に発表したことが掲載。
12 月 7 日 (木)	「日経WOMAN」	「ADFORUM」において、「PR プランナー資格認定検定試験」が掲載。
12 月 11 日 (月)	「CM通信」	広告・映像業界にまつわる話題を紹介するメディアである『CM通信』では、当協会の「2017 年度PR アワードグランプリ」におけるグランプリ、ゴールド、シルバーの各賞に7案件が選出されたことが掲載。

平成 30 年 1 月 1 日 (月)	「AdverTimes (アドタイ)」	コミュニケーション関連協会団体の理事長メッセージの中で、当協会近見理事長のメッセージ「パブリックリレーションズが社会課題解決の一助に」が掲載。
1 月 1 日 (月)	「月刊広報会議」 2 月号	当協会の連載コラムで、当協会が前年11月に開催した「国際交流セミナー」について紹介。
1 月 1 日 (月)	「月刊広報会議」 2 月号	「INFORMATION」に「2017 年度 PR アワードグランプリ」が掲載。
1 月 26 日 (金)	「デイリースポーツ (大阪・福岡)」	「デイリースポーツ」紙において、棋士の加藤一二三氏が、当協会の「日本 PR 大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー」を受賞し、表彰・授賞式に出席したことが掲載。
2 月 15 日 (木)	「CM通信」	協会が 3 月 1 日に開催する「PRプランナー資格制度 10 周年記念・特別シンポジウム」について 1 ページにわたり掲載。
3 月 1 日 (木)	「月刊広報会議」 3 月号	当協会の連載コラムで、「2017 年度 PR アワードグランプリ」の決定について紹介。
3 月 2 日 (金)	「日経産業新聞」	「日経産業新聞」3 月 2 日号において、当協会が 3 月 1 日に開催した「資格制度 10 周年記念シンポジウム」の開催について写真入りで記事掲載。
3 月 2 日 (金)	「毎日新聞(札幌・北九州)」	「毎日新聞」3 月 2 日号において、当協会が 3 月 1 日に開催した「資格制度 10 周年記念シンポジウム」の開催について記事掲載。
3 月 3 日 (土)	「山口新聞(下関)」	「日経産業新聞」3 月 3 日号において、当協会が 3 月 1 日に開催した「資格制度 10 周年記念シンポジウム」の開催について記事掲載。
3 月 6 日 (火)	「フジサンケイビジネスアイ」	フジサンケイビジネスアイ」3 月 6 日号に、当協会が 3 月 1 日に開催した「資格制度 10 周年記念シンポジウム」の開催について記事掲載。

※なお「資格制度 10 周年記念シンポジウム」については上記媒体のニュースサイトにも取り上げられた。

・ PR プランナー向け活動の認知向上と情報交流のためのソーシャルメディア活用

- ・ PR プランナー部会主催の各種活動を、協会Facebookなどを通じ発信した。幹事会メンバー同士の双方向コミュニケーションの拡充に向けては、試験運用的に幹事会メンバーのみのFacebookグループにて、幹事会メンバー同士の意思疎通、情報共有を図った。